

大安寺報

名句・名言に学ぶ

南こうせつ (歌手)

出逢いも別れも抱きしめて
生きてる今を愛していこう

お盆は、亡き方々だけでなく、家族・親族が集まる一大行事。お墓詣り・お寺詣りに出かけるだけでなく、懐かしいお店や観光地に足をのばし、しばし思い出にひたる方もおられるでしょう。

お盆期間中、お寺はひととき濃密な空気に包まれます。普段は、呼べば現れてくださるご先祖様たちが、その期間中は常に近くに見守ってくれているという感覚をお持ちになる方も多いのではないのでしょうか？

「逢うは別れの始まり」という言葉がある通り、私たちは大切な方と、いずれば別れなければなりません。しかし、頭ではそう理解できていても、いざその時になれば、私たちは思い悩み、悲しみにくれるものです。

今回の名句は、曹洞宗「梅花講」のため、南こうせつさん(曹洞宗のお寺の出身!)が書き下ろしてくださった歌「まごころに生きる」の一節。この「出逢いも別れも抱きしめて」には、仏教における大切な教え「縁起」が大きく関わって

います。「縁起」は「縁りて起る」という意味で、私たちの生きるこの世界の現象は全て「様々な条件が重なって」「相互依存関係の中で」起きているという教えです。私たち人間も、両親があつて初めてこの世に生まれ出ることができた「縁起なる存在」。その教えによって「別れ」に伴う悲しみを観るならば、「出逢うことができた」からこそ、その悲しみが産まれたということが出来ます。悲しみが深ければ深いほど、その出逢いがかけがえのないものであり、尊いものであったということ。別れの悲しみとともに、出逢いの有難さに感謝し、その両方を心の中で大切にし、抱きしめる…。その生き方こそ、悲しみを乗り越える大きな力となるのです。そして、さらに踏み込んで考えるならば、その出逢いと別れがあつたからこそ、「今の自分」があると、とらえることができます。この歌は、「今の自分を愛することは、かつて出逢い、別れざるを得なかつた人たちをも愛することにつながることを」教えてくれています。

「あの時ああすればよかつた」と、とかく過去を悔いがちな私たちですが、今を大切に生きることによって、過去ががらりと変わって見え、愛しく思えてくるとうことを、お釈迦様は教えてくれているのです。

合掌

お寺で

朝 YOGA

朝のお寺でのヨーガでのびやかな一日をスタートしませんか？



○日時

十月四日(日)

午前七時～八時半

※午前六時四十五分受付開始

○内容

ヨーガ／茶話会

○場所

当寺本堂

○ヨーガ指導

中島敬子先生

○定員

三十名

○参加費

三百円

○備考

動きやすい服装で。

○事前予約

0175-34-6426 (Fax)、
info@daijanji.jp、
0175-34-2926 (電話)
まで、お名前をご連絡
ください。

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)